

国際事業本部

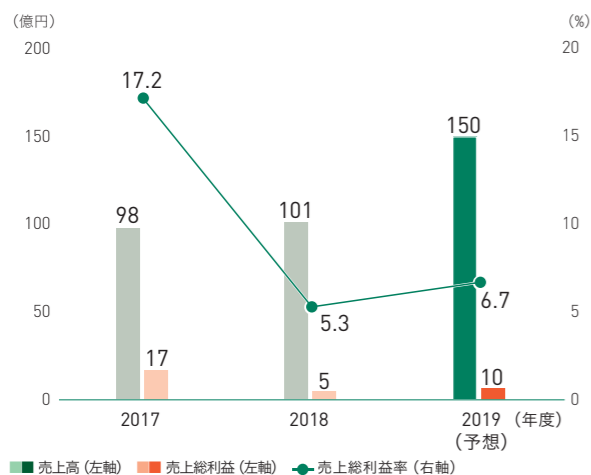
長年培ってきた技術力と信頼できる現地パートナーとの関係を活かし、高度な技術が必要とされるインフラ施設や、きめ細かいサービスが求められる民間の工場や物流施設の建設を中心に事業を展開しています。また、地域のニーズを見極めた開発・不動産事業の組成も進めています。



西松-Vision2027での 目指す姿

進出国のニーズを見極め、これまで培ってきた現地のクライアント・パートナーとの信頼関係のもとに、ライフサイクルコストを意識した「使いやすく、長持ちする」価値のある商品（サービス）の提供に努めます。

売上高／売上総利益／売上総利益率（個別ベース）



「BCA AWARDS 2019」受賞

2019年5月29日、シンガポールにおいて、Building and Construction Authority（建築建設庁）が主催する「BCA AWARDS 2019」が開催され、当社は「トランсмисシヨンケーブルトンネル東西線第3工区」の工事で2つの賞を受賞しました。ソイルポンプによるTBM掘削土の搬出や、ガントリーシステムによるトンネル内設備の設置など建設現場の生産性向上への取組みと、大深度の立坑内での2台のTBM同時発進や急曲線施工、通期で無災害達成などの現場管理への取組みが評価されたものです。また、表彰される工事のほとんどが建築工事である中、2年連続で土木工事が表彰されました。



戦略解説

事業のさらなる拡大を実現するため、 現地パートナーとともに新規市場進出と 顧客開拓に取り組む

国際事業本部長 林 謙介



全体としては海外事業の「安定性」を確保したうえで「規模拡大」を目指していますが、土木事業においてはマーケットの波に晒されるという状況が続いています。一方、建築事業は日系顧客の生産施設の建設事業が100億円規模で維持できており、事業の軸となっています。また、香港では、中規模案件に注力したことで建築事業拡大への糸口をつかむことができました。開発・不動産関連の事業は、海外の開発事業の組成や収益不動産への投資の基礎が整いつつあります。各事業が抱える変動要素への対処策として、土木事業については蓄積したノウハウを利用して、新規市場でのインフラ関連工事を入手すること、建築事業については外資系を含む新規顧客の開拓、開発・不

動産事業と連携した案件組成であると考えています。

今後は新規市場進出と新規顧客開拓を目標とし、「魚のいる漁場」にむけて、現行のリソースの再配置を進めます。土木事業では、フィリピンやオーストラリアなど、インフラ整備が急伸する市場にむけて、当社と協力関係にあるコンサルタントや建設会社のネットワークを活かし具体的な事業展開を図ります。建築事業では、現地の信頼できるパートナーと協業して事業拡大に注力していきます。開発・不動産事業では、建設事業への貢献を常に視野に入れつつ、開発・不動産事業本部との連携を深め、現在の方向性とスピードを維持しながら堅実に事業を進めていきます。

TOPIC

技術力を集結し、早期完成を目指す

当社は1980年にシンガポールに営業所を開設し、これまで土木事業では地下鉄工事を中心に、建築事業では超高層ビルであるUOBプラザやシンガポール国立図書館など、数多くの工事を手がけてきました。

現在携わっているプロジェクトは、2014年7月から施工を開始しているシンガポール陸運局（LTA）発注の地下鉄工事で、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ駅の構築、および川幅350mの河川下を横断する総延長1.4kmのシールドトンネル工事です。現在までに、トンネル部分および駅舎部分のBSC（Basic Structure Completion：基本的構造物の完了）を期日内に完了させたほか、無事故・無災害の記録も500万時間を達成し、お客様から高い評価をいただいています。残りの工事は、駅舎部分の仕上げ工事、および避難立坑の構築のみとなり、現場

はまさに最後の総仕上げの時期を迎えています。

シンガポールでは引き続き、地下鉄新線や空港拡張工事など、公共性の高いインフラ事業が計画されています。本プロジェクトを早期に完成させ、人財を最大限に有効活用することで、今後の事業展開を優位に図れるよう、国際事業本部、シンガポール営業所、現場が一体となり、「All Nishimatsu」で取り組んでいます。

